

学校を拠点に地域のネットワークづくり ～知り合い・語り合い・学び合う～

兵庫県三田市		● 活動名 ゆりのき子どもネットワーク	● 関係する学校名 三田市立ゆりのき台小学校
開始年度	平成 21 年度	学級数	27 学級
		児童・生徒数	777 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()		
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人
ボランティアの数	登録人数 102 人	属性	PTA 役員、地域住民など
参考 URL	ゆりのき台小学校ホームページに「ゆりっこ通信」が掲載されています。 http://www.city.sanda.lg.jp/kosodate/shougakkou/yurinokidai/kakusyuzyouhou.html		
● 連絡先	三田市民生活部市民協働室多世代活躍支援課		☎ 079-559-5046

● 体制図



● 活動の概要・経緯

ゆりのき台小学校区では、平成 16 年に地域の力を借りたいと、学校が PTA や地縁団体に声をかけて組織されたビーミーキッズが始めた、地域住民がいろいろな講座を提供する「わくわくスクール」、ボランティアグループ（ぶちっとボラ）が子供の居場所づくり事業として実施した「ゆうゆうクラブ」などの子供向けの活動が行われていた。これらの活動を基礎に放課後子ども教室を協働で実施しようと、平成 20 年に活動していた複数のグループと民生児童委員がゆりのき子どもネットワークを立ち上げた。子どもネットワークは、放課後子ども教室「ゆりっこ広場」、学校支援地域本部事業、三田型コミュニティスクールの活動を通して、学校と地域、家庭の連携の推進役となっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・平日の定期活動「ゆりっこ広場」「ゆりっこスポーツ」「ゆりっこメロディ」を通じて、子供がやりたいことを自分で決めてやる場所を提供している。
- ・学校休業日には、地域の人や NPO 法人等に依頼して開催する講座、ワークショップ、イベントなど単発企画型の体験活動を実施している。
- ・継続的に異学年の同じメンバーで活動する「ゆうゆうクラブ」を行っている。
- ・学習支援として「ゆりのき楽考」を実施している。
- ・家庭科のミシンの授業をボランティアと一緒に作るといった、新しい学校支援の活動を提案するなど、コーディネーターの役割が広がっている。
- ・地域活動協議会にコーディネーターも参加。学校内にとどまらず地域全体の活動を視野にコーディネートしている。

【実施にあたっての工夫】

- ・情報を共有し一緒に考えることで、当事者である意識を持ってもらえるよう努める。毎月スタッフと PTA コーディネーターが参加する「スタッフミーティング」と 学校と地域の「コーディネーター打ち合わせ」を行う。
- ・学校内に地域の部屋が配置されており、先生や保護者が日常的に地域の人の活動を目にし、コーディネーターとも雑談できる機会をつくりだしている。
- ・毎月「ゆりっこ通信」を発行し児童に配布し、学校のHPにも掲載している。また、地域で全戸配布している地域活動協議会発行の通信にも情報を掲載している。
- ・多様な地域の大人と子供たちのつながりができるよう、だれでも参加しやすいゆるやかな関わりを大事にしている。また、ボランティアの「できる」「やってみたい」を形にできるよう支援する。
- ・ゆりっこメロディは、校区にある「デイサービスゆりのき」での訪問演奏や、地域のイベントで発表をしたり、5 年生の総合的学習では、自治会のお祭を体験の場とするなど、子供の活動を地域につなげている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・学校を核として子供を中心に地域の大人を巻き込み、主体的に参加する人を生み出し始め、地域に開かれた学校づくりに貢献できた。さらに、学校を核とすることで多世代の交流と各団体・個人のつながりづくりが進み、自然と語り合い学び合う機会が増えた。それは、子供たちを気にかけて関わってくれる大人が増えるということであり、中高生になっても挨拶したり地域の活動への参加を呼び掛けたりすることができるようになった。関わっている大人も地域に役割と仲間を得て、いきいきと活動している。
- ・地域、学校のどちらにも欠かせないコーディネーターも、様々な取組の中で地域につながりを深め、共に学び合うことで成長できると実感している。
- ・学校での様々な取組が、新たな人材の発掘や気づきの場所にもなっており、地域にとっては次の担い手が育つ貴重な活動となっている。

● その他

地域と学校が連携・協働した基盤的な活動における学習支援活動は、図工科でののこぎり使用の補助・家庭科でのミシン補助・総合学習でのボランティア体験機会の提供などの授業補助。

放課後子ども教室における、企業・NPO との連携については岸和田自然資料館による講座「ちりめんモンスターを探せ」、SSCK (株)の社会貢献活動 CAMP による CAMP クリケットワークショップ、NPO 法人場とつながりの研究センターによるプログラミング講座の開催など。



リコーダーを楽しむゆりっこメロディ



ゆうゆうクラブでの流しそうめん

ポイント

統括的なコーディネーターの配置、次世代のコーディネーターの養成により、活動の継続性を高めています。日ごろから世代や立場を超えたつながりができており、学校を核としたネットワークが広がっていますね。